

主の日の祝福

ヨエル書3章

そこであなたがたは知るであろう、わたしはあなたがたの神、主であつて、わが聖なる山シオンに住むことを。エルサレムは聖所となり、他国人は重ねてその中を通ることがない。(17)

この章は「主の日」を遠い未来に訪れる事柄として受け止め、そこでなされる神の審判と神を信じる民に注がれる祝福が語られています。

「主の日」は、神に背き続ける者たちにとつてはその罪が最終的に裁かれる日である一方、神の民にとつては祝福に満ちた回復が与えられる日です。神の審判がなされるそのとき、人々は主こそ神であることを知るようになると言われています。主は神を信じる者たちにとつての避け所となり、とりでとなつてくださいます。そればかりか、主は彼らの中に住まわれるようになります。神の民とは、神を自分たちの内に住まわせる民のことです。背きの罪のゆえに民のもとから離れた主が、再び彼らの内に住んでくださるといふ約束は民にとつて最高の祝福でした。キリスト教会は、救い主キリストの到来によつて主の日の祝福がすでに始まっていると理解しました。主イエスの贖いによつて、その約束がすでに成就しているのです。わたしたちは主が内に住んでおられる聖所とされているのです(第一コリント六19)。

わたしたちキリスト者は、世の終わりの日における祝福を先取りするようにしてこの世に生きる者たちです。主の日の祝福はすでに始まっているのです。主イエスをわたしたちの存在の中心にお迎えし、聖霊の宮としての光栄ある歩みを続けたいと願います。